

## 文化遺産の視点から見たカトマンズ盆地コカナの考察

- 2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その1 -

正会員 ○森 朋子 \*1

同 西村 幸夫 \*2

ネパール地震 歴史的町並み 文化的景観  
世界遺産暫定リスト カトマンズ盆地 集落

## 1. はじめに

2015年4月25日ネパール地震の発生により、世界遺産に登録されているカトマンズ盆地の歴史的建造物や、周辺の歴史的町並みは、甚大な被害を受けた。被災者に対する支援が要請される一方で、これら文化遺産の被災状況の把握とともに、復旧・復興が危惧されている。

本研究は、2015年9月25日から2016年2月29日の期間において、文化庁による文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）の一環として行われた「ネパールにおける被災歴史的街区の空間利用等に関する調査」成果をまとめるものである。調査対象地は、カトマンズ盆地南西部に位置し、1996年にネパールの世界遺産暫定リストに登録されたコカナである。

一方、暫定リスト登録当時の情報は得られず、またユネスコHPにある3つの文章による記述<sup>1)</sup>では、コカナの文化遺産としての価値を十分に理解できなかった。よって、筆者らはコカナを文化遺産として理解しつつ、その被災状況を把握する必要がある。本稿では、そうした立場から、カトマンズ盆地の暫定リスト物件と、本研究に関連するネパールの文化財保護行政の現状を整理し、文化的景観と歴史的町並みの2つの「文化遺産」の視点からコカナを考察する。

なお、プラジャパティら(2008)<sup>2)</sup>が、コカナを調査対象の一部に、ネワール族の住まいに対する空間概念について論じている。本稿では、その内容を参考にしつつ現地調査をした上で、有形文化財としてコカナを考察するものである。

## 2. カトマンズ盆地の暫定リスト物件と文化財保護行政

## 2-1. カトマンズ盆地の暫定リスト物件

カトマンズ盆地は、1979年にネパール最初の世界文化遺産として、3つの王宮と4つの宗教施設を構成資産に登録された。その他、カトマンズ盆地には、コカナを含め4つの暫定リスト物件が存在する(図1)。これらは、かつての交易路の拠点として発展した町、中世の建築群が残る町やその土地特有の集落など、王宮周辺に展開した人びとの居住地である。近年の暫定リストは、世界遺産カトマンズ盆地と歴史的な関係を持つ資産として拡張登録を目論むことが記載され<sup>3)</sup>、コカナも同様と推測される。

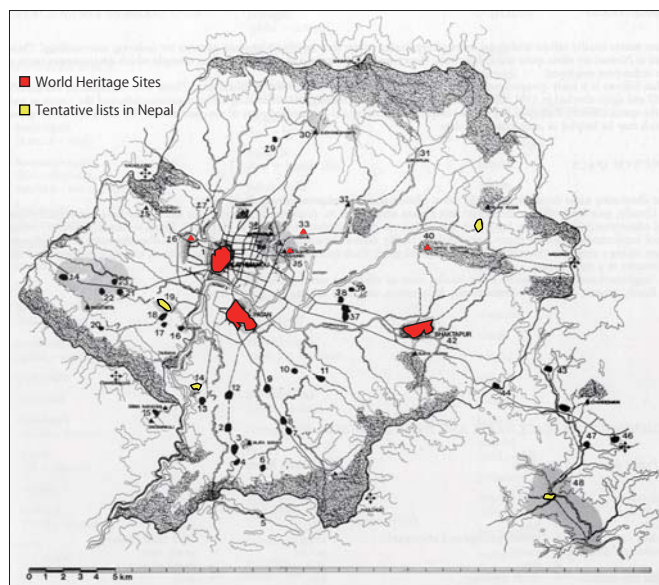


図1. カトマンズ盆地の世界遺産構成資産と暫定リスト物件

([『Newar Towns and Buildings』<sup>4)</sup>から抜粋し筆者加筆、コカナは図中14)

## 2-2. 文化財保護行政の概要

ネパールにおける文化財保護行政は、文化・観光・航空省のもと、考古遺跡保存法に基づき、考古局が管轄する。本研究に関連する有形文化財は、100年以上歴史のある寺院、記念建造物、民家などを「Ancient Monument」として、また、これらのある場所を「Preserved Monument Area」として保護が行われている。

一方、前述の暫定リストにある町や集落など、居住地を保護する枠組みは含まれていない。今回の震災でこれらが被災したことを契機に、「Historical Settlements」を初めて定義し、復興ガイドラインを策定する試みがあることがわかった<sup>5)</sup>。

## 3. 文化遺産の視点から見たコカナ

## 3-1. コカナ概要

コカナは、中世インドーチベット交易路にあった集落で、マスタードオイルの生産地として知られている。昨年、5つのVDC (Village Development Committees)を統合して誕生した市に位置するが、旧コカナVDCはコカナ領域に重なり、分水界を境界の基本とする。住民の大半はかつての農業カーストで、現在も主に農業を生業とする。人口は4,927人で、ここ40年で概ね倍増した<sup>6)</sup>。

### 3-2. 文化的景観としての考察

居住域は、南北 2 か所の小高い丘に位置する。この間、中世に Malla 王がつくらせた Rajkulo (王の運河) の支流といわれる灌漑用水<sup>7)</sup> から、自然勾配と凹地を巧みに利用した水利システムを配し、バグマティ川へ向かいすり鉢状に緩やかに傾斜した地形を棚田にした美しい景観が見られる。ユネスコらによる 1977 年の調査報告書には、この棚田を屋外劇場と呼び、カトマンズ盆地文化観光の重要な要素であることが記されている<sup>8)</sup>。

ここは、農業生産活動とともに祭事や葬送などが執り行われる空間でもある。2つの居住域から棚田を通り、西端の寺院や川端にある火葬場へと至るルートは、祭事と葬送で分けられ、それらルート上には拝所や石像が点在し、宗教的に意味を持つ空間となっている。(図 2)

### 3-3. 歴史的町並みとしての考察

南居住域の中心には、ルッドラヤニ寺院がそびえる。いわゆるネパールの寺院建築で、三重の屋根を持つヒンズー教寺院である。仏塔、池、水場 (Hiti)、休み屋 (Pati) などが隣接し (図 3)、集落の祭事には、西に下った広場 (コーラチ・チョーク) とともに中心的な祭祀空間となる。この 2つを結ぶ東西の通りが居住域の中心軸となり、ネワール様式の伝統的建造物が比較的多く存在する通りでは、ルッドラヤニ寺院と相まった中世の面影を残す歴史的町並みが見られた (図 4)。

また、続稿で詳細を論じるが、南居住域の通りに面する建物の約 6 割が伝統的建造物であることがわかった (図 5)。しかし、増築や補修などによるファサードの変化も多くみられ、さらに、建築様式の近代化 (RC 造) や、街区内部への無秩序な建て詰めも散見された。

## 4. まとめ

以上から、世界遺産カトマンズ盆地の拡張登録の可能性を持つ物件として、ココナが持つ、Rajkulo や棚田景観の背景にある世界遺産カトマンズ盆地との歴史的な関係性に対し、さらなる解明が必要と考える。また、考古局が策定を進める復興ガイドラインにより「Historical Settlements」が初めて定義され、震災復興が進められる予定であるが、まずは現存する比較的保存状態のよい伝統的建造物を保護することが、喫緊の課題と考える。

#### 【補注】

- 1) <http://whc.unesco.org/en/tentativelists/844/> (accessed2016-3-28) 主に、①中世に形成された代表的集落であり、②宗教寺院と③マスタードオイル搾油の伝統工法を続けている、その土地特有の集落であることが評価されている。
- 2) ラトナ・ケサリ・ブラジャパティ他 2 名：ネワール族の儀礼および祝祭行事における人びとの行動から見いだされる住まいをつくり出す空間概念、ネパールカトマンズ盆地のココナとブンガマティの場合、日本建築学会計画系論文集、第 73 巻 第 631 号、pp.1861-1868, 2008.9
- 3) <http://whc.unesco.org/en/tentativelists/5257/> (accessed2016-3-28)

- 4) <http://whc.unesco.org/en/tentativelists/5258/> (accessed2016-3-28) 2008 年登録の上記 2 物件の説明に、カトマンズ盆地の拡張登録としての可能性が考えられる、という記述がある。
- 5) Niels Gutschow: Newar Towns and Buildings, VGH Wissenschaftsverlag, 1987
- 6) 2015 年 9 月 28 日、ユネスコカトマンズ事務所の国内コンサルタント Kai Weise 氏による「Conservation Guideline for post 2015 earthquake rehabilitation」素案を東京文化財研究所経由でメールにて受領した。さらに、2016 年 2 月 5 日、ネパールから考古局長・ユネスコカトマンズ事務所を東京に招聘して開催した、東京文化財主催のセミナーで、未完成であることを確認した。
- 7) 2011 年の国勢調査から、ココナの人口は 4,927 人とあった。また、1969 年 Government of Nepal 作成の『The physical development plan for the Kathmandu Valley』に、ココナの人口が 2,546 人との記載があった。
- 8) ココナの Nabin Dangol 氏 (nabdangol@gmail.com) から 2015 年 10 月 2 日に提供された資料を参照した。Rajkulo に関する詳細調査は、今後の課題とする。
- 9) UNESCO, UNDP: Master plan for the conservation of the cultural heritage in the Kathmandu Valley, 1977.3



図 2. 旧ココナ VDC の範囲 (Bing マップに筆者加筆)



図 3. 寺院と仏塔



図 4. 南居住域の中心通り

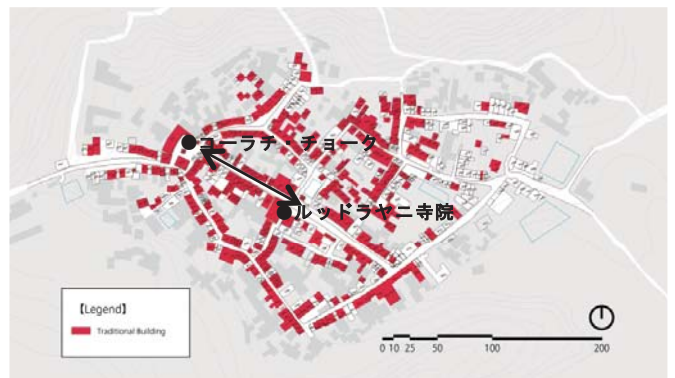


図 5. 南居住域の伝統的建造物分布図

\*1 東京大学先端科学技術研究センター 助教・博士 (工学)

Assistant Prof., Research Center for Advanced Science and Technology, Univ. of Tokyo, Dr. Eng.

\*2 東京大学先端科学技術研究センター 教授・工博

Prof., Research Center for Advanced Science and Technology, Univ. of Tokyo, Dr. Eng.